



令和5年度 白田中学校グランドデザイン

【学校教育理念】

「桃李不言下自成蹊」の精神
桃李は言らず下に自ずと蹊を成す
(史記)
⇒人望・信頼のある人には、自然と人が集まる、の意

【学校長の願い】

・なりたい自分もち、生徒も教師もなりたい自分になる努力を継続する。
・地域と協働し、地域を支える人材となる生徒を育成する。

【教師としての心構え】

『教育とは不完全な教師が不完全な子どもを導くこと 子どもを意のままに動かすことを恐れよ』
(教育学者 上田薫先生の言葉より)

【めざす学校像】

- あいさつの響く学校
- 学習力を高める学校
- 表現力を高める学校
- 地域との連携を深める学校

【めざす生徒像】

- ・基礎基本を大切に自ら学ぶ・共に学ぶ、学び方を学ぶ生徒
- ・思いやり、人間関係力、自らの感性を磨く生徒
- ・鍛錬、健康学習、食育推進を生かせる生徒

【学校教育目標】

「信頼される人になる」

- ◎疑問を大切に、学力を身につけよう。(知育)
- ◎優しさを大切に、思いやりの心を育てよう。(徳育)
- ◎継続を大切に、強い心と体をつくろう。(体育)

【生徒の実態】 ◎ 良い点・更に伸ばしたい点

- 素直で気持ちが安定した生活が送れている。
- 落ち着いた雰囲気、書くこと、聞くことを通した個人追究ができる。
- 自分の考えを自分の言葉でまとめて、相手に伝えることができる表現力。
- 友と関わり合う中で学びを深めていくコミュニケーション能力。

【教育課題】

- ・家庭問題に起因する生徒の心の問題への支援
- ・基礎的な学力を確実に定着させる指導
- ・課題を設定する力の向上と探究的な学びにつながる段階的指導

学校教育目標を具現するための3つの柱(重点)

1 教科・領域の指導

各教科

- ①「分かる授業」を念頭に置いた授業改善と授業のユニバーサルデザイン化の工夫
※ICT教材を取り入れた生徒の活動時間や発信の確保
- ②「みとどけ」を意識した授業づくり
- ③CRTの結果分析から「重点単元・題材」の決めだしと教材研究の充実

特別の教科 道徳

- ①考える場面、議論する場面を念頭に入れた授業構想
- ②その子の「良さ」の変容に着目した評価

総合的な学習の時間・特別活動

- ①課題を設定し、追究する単元の位置付けを図ること
- ②「地域に学ぶ」カリキュラムの構築
- ③将来を見据えた進路指導

2 生徒指導(学級経営)

- ①生徒の思いを受け止め、生徒に寄り添うきめ細かな指導観の確立
- ②当たり前に見えることを見逃さず、温かな評価を生かす人間関係力の育成
- ③「場を清め、時を守り、礼を正す」を軸にした生徒指導の充実
- ④歌声を響かせることによる共に創ることのよさ、達成感の感得
- ⑤全職員で支える配慮生徒への支援体制の充実と外部機関との連携(不登校支援部会を軸に)

3 生徒会・部活動・行事等

- ①生徒会の取り組みを全体で共有し合い、達成感・成就感を味わえる温かな指導
- ②全職員で支援体制を組み、仲間との支え合いの素晴らしさを感得させたり、忍耐力を育てたりする部活動指導
- ③学級や学年を含めた様々な行事や奉仕活動等での学びを生活づくりに生かす指導

3つの柱における日常における実践ポイント

①学級経営の充実

- ・一人一人が安心して生活できる学級集団
- ・自主的、実践的な学級集団
- ・生徒相談日による個の理解の充実
- ・不登校生徒への対応(外部機関との連携)
- ・学年や学級を越えた集団指導体制の充実

②生命の尊重と、正しい人権感覚の育成

- ・いじめ、差別、嫌がらせ、暴力を許さない学校
- ・人権感覚の錬磨(教師自身からの研修)
- ・一人で抱え込まず、情報の流れをよくし、早めに対応、協力して解決

③OJTやメンターチームを中心とした職員研修

- ・互いに授業を見合うことによる学び合い
- ・研修を受けた教員が講師となるミニ研修
- ・生徒からの授業アンケートを基にした授業改善

④家庭・保護者・地域との連携

- ・開かれた学校(学校だより、ホームページ)
- ・白田中コミュニティスクールとの連携(人材活用)
- ・生徒会や部活動を通じた地域との交流(ボランティア)
- ・小学校や白田地区PTAとの連携

⑤健康・安全教育、食育の推進

- ・学年、学級に相応する性教育の充実
- ・給食週間を活用した食育の推進
- ・安全管理の啓発
- ・交通安全に対する意識の向上(交通安全教室)
- ・部活と怪我予防を結び付けた怪我予防の推進

【全校研究テーマ】

「思考力・判断力・表現力を高め主体的に学ぶ生徒の育成」(二年次)

【研究の重点】

- ①生徒が主体的に取り組める学習課題の設定
- ②単元終末時における到達目標を明確にした授業の工夫

【具体的な取り組み】

- ①単元導入時・終末時における見通しと振り返り
・・・ 振り返り用紙を中心とした学びの軌跡を明示化
- ②発信力の向上を目指し、相手に伝わる場面づくり
・・・ 相手意識を大切にしたまとめ、タブレットを使ったアウトプット
- ③信州型ユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業



【振り返りとフィードバックによる見直し】

- ① 生徒、保護者、コミュニティスクール推進委員、職員による学校評価、生徒による授業評価
- ② 研究授業、研究のふりかえり等による相互評価
- ③ 全国学力・学習状況調査・CRT、定期テストの結果分析からの改善